2007.7.13
第133号

発行
福島県市町村教育委員会連絡協議会
北会津支会
耶麻支会
両沼支会

編集
福島県教育庁会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

「ふるさと」を担う人材の育成

会津教育事務所長
福井一明

五月に、二つのニュースが目にとまった。一つは、「ふるさと納税」についての議論、もう一つは、日本の都道府県別将来推計人口の公表である。

毎年、福島県の高卒者二万人のうち県外への流出者が約八千人いるという。ある試算では、高校を卒業するまでの十八年間に一人あたり一・六〇〇～一・七〇〇万円の児童福祉や教育費用がかかっている。もし、「ふるさと納税」制度が実現すると、一人あたり約三〇〇万円の行政サービスコストを回収できるそうである。

一方、将来推計人口調査によると、福島県の総人口は、平成一七年の二〇九万一千人から、平成四七年には一六四万九千人と、実に、この三〇年間で四四万二千人も減少する予測が出た。しかも、高卒者の県外への流出率はほぼ横ばいに近い予測が出されている。年々人口は減少するが、流出する人の割合は減少しないことになる。

このような中で、教育界としては、お金の環流ばかりでなく、人材の動きも視野に入れて、その育成に取り組まなければならないのではないか。

現在、各自治体では、将来の市町村の在り方を模索し、総合計画等を策定している。これらのビジョンを十分に踏まえ、将来のわが町づくり、わが村づくりのための人材育成という視点から、学校教育、社会教育、家庭教育の在り方を、再検討してみる必要がある。

将来、わがふるさとを担う農業、工業、商業従事者、公務員、医師、教員など、どのような資質・能力を有した人材が、どのくらいの数必要なのだろうか。医師不足が叫ばれるが、医師に限らず、足りなければ他から来てもらう、という発想はもはや通用しなくなった。他でも不足している。いないのである。ふるさとを担う人材は、ふるさとで育てるしかない。

今春小学校に入学した児童が、高校を卒業するのは平成二一年。二〇年後のふるさとを担う人材育成への挑戦は、もう始まっている。

平成十九年度 管理課重点事項

教職員の事故防止や学校事故の防止につきましては、服務倫理委員会を機能させるなど、各市町村教育委員会・各学校で創意工夫ある具体的な取組みをしていただいておりますが、今後も事故0（ゼロ）に向けて努めていただきたいと思います。

一 教職員の事故防止

○不祥事の絶無
・服務倫理委員会を機能させ、教職員の危機管理意識の高揚を図るとともに、管理職自身が積極的に関わること。
・チェックシートを活用し、日頃の自分の言動、考え方等を振り返ることにより、不祥事防止に対する当事者意識を高めるように努めること。

○交通事故の防止
・スピード超過による違反事故が多く発生している。互いに安全運転への声掛けに努め、安全運転、ゆとりある運転に心がけること。

○負傷事故の防止
・自分の体力を過信せず、適度な運動を心がけること。

○教職員のメンタルヘルス
・互いに何でも相談し合える職場環境づくりに努めること。

二 学校事故の防止

○学校火災・盗難事故の防止
・校舎内外の整理整とんに努め、校舎周辺の可燃物の撤去を徹底すること。
・会計事務は適正に執行し、現金は校内に置かないこと。

○施設設備の安全管理
・防火設備等の操作方法と係分担等を全教職員に周知すること。
・学校プールの管理運営については、薬品の安全管理を含め、常に細心の注意を払い、事故の未然防止に努めること。

○個人情報等の適正管理
・各種情報の管理体制について教職員の共通理解を図り、漏洩や流出を防止すること。
・PC等の情報機器の管理に努めること。

生涯学習課より

『豊かなかかわりの中で青少年の育成を図る』

～青少年ボランティア育成の取組み～

「お兄ちゃん、犬の形の風船つくって。」
「うん、いいよ。すぐつくるからね。」
「はい、できたよ。」
「かわいいね、ありがとう！」

これは、昨年度、県で実施した「心を育む親子の広場事業」での幼児と高校生とのふれあいの一コマです。ボランティアスタッフとして参加した中・高校生が、幼児や小学生にバルーンアートでかわいい動物を作ってあげたり、おもちゃ作りの手助けをしてあげたりする姿は、生き生きとしていてほほえましいものがありました。

○ 地域の教育力を高めるために

青少年における非行や引きこもり、人と人とのつながりの希薄さなどの現代的課題は、家庭の教育力や地域教育力の低下が要因の一つであるとされています。これらの課題を解決するため、青少年教育、成人教育、家庭教育等の分野の枠を越えて人材の育成を行い地域の教育力の向上を図っていくことが求められています。そのような中、青少年教育では、子どもたちが幼児や小学生はもとより、高齢者、障がい者等と積極的にかかわり、地域で主体的にボランティア活動ができる青少年の育成が求められています。

○ 青少年ボランティア研修会

昨年度、会津域内では、中学校１３校、高校１０校、延べ９０名の生徒が研修会に参加しました。第1・２期の研修では、「ボランティア活動について」などの内容で様々な講師の方々からボランティアの考え方などの基本について学びました。

○ 学んだことを実践で生かす

第３期研修では、それらの学習を生かして、冒頭で紹介したような「心を育む親子の広場事業」のほか、「会津秋まつり」「会津養護学校まつり」など、様々な場でボランティアを実践しました。

「会津秋まつり」では、秋まつり実行委員会やアイヅ・リーダーズ・アソシエーションの協力を得て、藩公行列の交通整理や会場案内、観客の誘導などを経験しました。初めは多くの人を前にしてなかなか声が出せなかった生徒も、時間が経つにつれ大きな声で応対できるようになり、観光客に生き生きと接する姿が印象的でした。

「会津養護学校学習発表会（パワー祭り）」では、養護学校の生徒や職員、保護者とともにイベント広場の準備や会場整理、物品販売の補助等を行いました。一生懸命活動に取り組む養護学校の生徒の姿や保護者の皆さんの生き生きと楽しそうに活動する姿にパワーをもらい、得るものが多い一日となりました。

○ 子どもたちのための架け橋を

ボランティアの精神は自発性・無償性・公共性ですが、学校でこれらの基礎を学んだ後に、その自発性を生かして実践する場としての地域の果たす役割は大きいと考えます。幼児や小学生、大人、障がいを持つ人などとさまざまなかかわりをもつことは、思いやりの心や望ましい人間関係のあり方などについて学ぶことになり、豊かな心の育成につながります。こうした意味からも、学校・家庭・地域のさらなる連携を図りながら、地域ぐるみで青少年のボランティア活動を推進してほしいと願っています。

県教育委員会といたしましても、本年度、地域教育力推進事業の一環として、『ボランティアセミナー中高生編』を各地区ごとに開催し、青少年の健全育成に努めて参ります。

関係機関・団体がそれぞれ手をつなぎ取り組んでいきましょう。地域のそして未来の日本を担う子どもたちのために！

あいづね

心に残る人々

北塩原村教育委員会　教育長
佐　藤　定　男

喜多方二中に勤務していた３５年前を思い出す。放課後、突然M校長から「この本読んでごらん。」と中公新書、「ある明治人の記録、会津人柴五郎の遺書」と言う本を手渡された。当時、体操の部活動指導に情熱を奪われていた私にとって読書は縁遠い話であった。しかし、校長が直々に勧めた本である。「あの本読んでどうだった。」と後日週案に書かれたらどうしよう。まあちょっと読んでみるかとの軽い気持ちで読んだものである。何ページか目を通しているうちに、たちまち引き込まれてしまった。教材研究もそっちのけで一気に読破してしまったのである。そして驚いた。会津にこのような逆境に生き、努力を積み上げた偉人が存在したとは知るよしもなかったのである。

翌日、読み終えた感動を持って校長室に向かった。感想をしっかり答える準備はできていたが、話題は変えられ、「この頃いい授業やってるね。」とか「体操部の生徒、生き生きした活動しているね。」等の話題で終わってしまった。私は、部活動のみでなく教科の教材研究もしなければ‥‥と言うことを言われるだろうと思っていた。それからと言うもの自己反省に立ち「教材研究をし、もっといい授業ができなければ」と思ったものである。この本との出会いは私の姿勢を変えた。

M校長は、部活動の巡視で、「すごいね。よくできるね。」と生徒にも声をかけて激励、教師に対しては週指導計画には必ず褒めことばが記載され、当時の同僚全員が週指導計画が戻ってくるのを楽しみにしていたものである。教科部会内部での切磋琢磨、全教職員が教材研究。「若松を超えるんだ。」と願うM校長のご指導のもとにがんばった当時の同僚が目に浮かぶ。

地域に学ぶ

「地域に残る自然遺産の保護と活用」

喜多方市教育委員会（旧塩川町）

喜多方市塩川町の東方、標高約650ｍの雄国山麓の中腹に「杓子ヶ入メグスリノキ」という、樹齢約400年のメグスリノキとしては日本有数の巨木が渓流沿いにひっそりと佇んでいます（樹高20ｍ・幹周4.1ｍ）。かつては山仕事を行う人々の目印であり、休憩場所ともなっていました。平成8年、折からの漢方薬ブームのなかで、心ない人々によって樹皮が剥ぎ取られ、さらには伐採の計画も持ち上がりました。大切に守り継がれてきた巨木を守るために地元住民らが立ち上がり、伐採中止要請など積極的な活動により、ついに保存が決定しました。旧塩川町では町の天然記念物に指定するとともに、平成12年には林野庁の「森の巨人たち100選」にも選定され、メグスリノキの巨木として一躍注目を浴びるようになりました。

これを機に、地元有志及び文化財関係者らが中心となって、平成12年に「メグスリノキ・巨樹巨木保全協議会」が誕生し、以後、町（市）の補助金や県のサポート事業、一般の方々からの賛助金により、樹木の保護・保全、環境整備等を行なってきました。また、ボランティア団体「もりの案内人の会」の方々による自然観察会を行いながらメグスリノキまでを歩く「ウォーキング大会」などの事業を通じて、樹木の保護と自然の大切さを訴えています。今後も、地元の宝である自然遺産を守り、後世に伝える活動を続けていきたいと考えています。

作品と指導

工作

『ぶらんこ』

喜多方市立山都第一小学校
4年 佐藤美咲

色々な大きさに切った角材を並べたり、組み合わせたりする中で、心に浮かんだものを作りました。また、切ったり接着剤ではったりするとき、友達と協力して活動することで学び合う楽しさを味わえるようにしました。

指導者 前野 章

習字

『確認』

湯川村立湯川中学校
3年 山口 薫

3年になって最初の書写の時間で書きました。とても素直な筆遣いで書かれています。まだ仕上げまでは時間がかかる作品です。行書の特徴である点画のなめらかな連続と省略について学習していきます。

指導者 高橋久美

絵

『教室から見た自転車置き場』

会津若松市立河東中学校
2年 渡部ゆきな

日常生活の中で何気なく窓の外を描いた。初夏の空気の清々しさが感じられ、やんわりとした彼女らしいタッチで描かれている。透明水彩を使用し、黄色や青の混色に注意しながら葉の色を一枚一枚丁寧に彩り、緑の空間を表現している。

指導者 広田光子

私の抱負

「教師の力量」

猪苗代町立
吾妻中学校
校長 矢澤良伸

「何事にも素直に取り組む生徒」。現在の吾妻中生徒を適切に形容する言葉。授業でも学校行事でも部活動でも、本当に素直に取り組み、着実に成長している姿が実感できます。また、保護者や地域の方々の意識が高く、全面的な支援・協力が得られる環境にあります。

赴任したばかりの職員会議では、学校経営指針として「生徒の夢がかなう学校」を具体目標とし、生徒の「今日」を輝かせ、生徒が「明日」に向かって前進できるよう促して欲しいという話をしました。それから三ヶ月。生徒は、まだまだ伸びる力を残しているようです。これからどこまで伸ばせるか、吾妻中教師集団の力量にかかっています。

経験を生かして

磐梯町立
磐梯中学校
教頭 髙橋弘悦

日本で最初の、そして最も大きなバンコク日本人学校で三年間勤務させていただき、この三月に帰国しました。

在外教育施設派遣のメリットは、全国から参じた先生方と仕事ができること、また、世界を相手に働く企業、国際機関の方々と率直な話ができることです。私も視点が広がっていくのを感じました。

バンコク日本人学校には、多くの福島県出身教員が在籍していました。平成一八年度は四名すべてが会津出身で、それぞれの場で重要な役割を果たしていました。

我が県のレベルは決して低くありません。やる気も能力も一流です。自信を持ち、真に子ども達のための教育を推進したいものだと思います。

初心を大切に

昭和村立
昭和小学校
養護教諭 菊地明実

緑豊かな昭和村に着任して三ヶ月。校長先生はじめ諸先生方にサポートしていただきながら、やっと見通しを持って仕事を進めることができるようになりました。

ところで、昭和村は私の祖父や母の出身地であり、その地で働けることはとても光栄だと思っています。

養護教諭として踏み出すにあたり、次の三つを大切にしていきたいと考えています。誰に対してもあいさつを大事にすること、子どもたちに頼りにされる養護教諭になること、昭和小職員として自分にできることがあれば、進んで行動に移せるよう心がけることです。

これらのことを心に置き、縁ある昭和村でがんばっていきたいと思います。